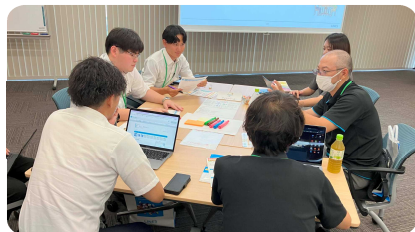


第11回ラインズユーザー交流会開催

「ラインズeライブラリアドバンス」をご利用の学校および教育委員会の勉強会・交流の場として、全国から28人にご参加いただき、第11回ラインズユーザー交流会を2025年8月1日に開催いたしました。今回は、このユーザー交流会の様子をご紹介します。

意見交換 グループで課題を共有し、解決策を考える



課題1：夏休み明けの授業にどのように取り入れますか

「授業支援機能で定着を確認する」「長期休暇の課題振り返り」「紙教材とデジタルドリルのハイブリッド」など、各グループで次から次へと先生のアイデアや工夫が飛び交いました。教育委員会からは、不登校支援やログ活用の具体的な取り組みが紹介され、文部科学省の方針とも重なる「学びの保障」に関しても話し合われました。



課題2：先生同士の活用差をなくすために、どのようなことができますか

「短時間研修の実施」「褒め合う雰囲気づくり」「トップダウンでの環境整備」など、現場ならではの工夫が議論されました。教育委員会からは、ICT委員会や動画周知など組織的な仕組みづくりが提案され、ICTが苦手な先生も巻き込みながら活用の輪を広げる方法について意見交換されていました。

▲先生グループの意見交換

発表

小中学校・教育委員会の目線から考える

意見交換のあと、全グループが発表しました。

小学校 算数だけでなく、国語や社会での定着確認、長期休暇中の振り返り、自由進度学習への挑戦などの実践例が紹介されました。

中学校 単元末テストやプレテストの実施、保護者懇談会での活用、学習履歴を生徒理解に生かす視点が示されました。

教育委員会 不登校支援や長期休暇中の学習状況の確認、校内研修や情報発信による仕組みづくりが提案されました。



▲教育委員会グループによる発表

全体の講評

玉川大学 久保田教授

意見交換では、授業に生かせる新しい視点や、不登校支援・家庭学習など多様な活用場面が取り上げられました。教員間の差を縮めるためには、教育委員会や管理職からの指示やルール of 徹底だけでなく、教員同士で使いやすさを共有する工夫も大切という意見が印象的です。

また、ラインズeライブラリを学習活動に取り入れて、子どもに自己選択・自己決定の機会を提供することはもちろん、教員は学びを見取るチェックポイントやパフォーマンス評価につなげていくことが、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を結びつけるヒントになるのではないかと感じました。

懇親会

参加者が交流する・意見を深める



▲ラインズより乾杯・挨拶



▲先生同士で資料の共有



▲先生からご意見を伺う

事例発表

ラインズeライブラリの実践を発表する

二次元バーコードを読み込むと、事例発表校の「eLAつうしん」をご覧ください。
※田代中学校の「eLAつうしん」は今年度中に発行を予定しております。

eLAつうしん

255号

主体的に学習に取り組む態度

主体的に学習に取り組む態度	前期	後期	合計	評価
1	30	30	60	A
2	31	29	60	A
3	38	25	63	A
4	3	10	13	C
5	36	30	66	A
6	35	10	45	C
7	36	30	66	A
8	3	10	13	C
9	22	5	27	C
10	29	25	54	A
11	22	20	42	C

eライブラリを活用して行った自主学習を何項目取り組んだのか、達成率に応じてA～Cの評価を付け、その点数を加算している



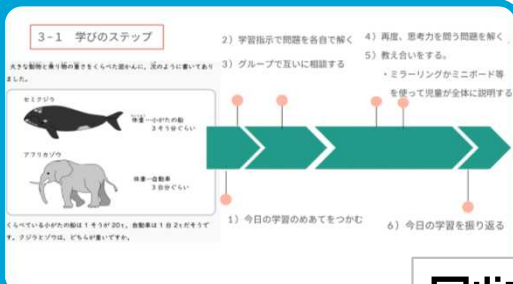
個別最適な学びの実現と教員の働き方改革の推進

千葉県茂原市教育委員会
齊藤 亮平 先生

前任校（本納中学校）での学習履歴を評価に生かす実践や教員の業務負担改善への取り組みを紹介しました。

eLAつうしん

260号



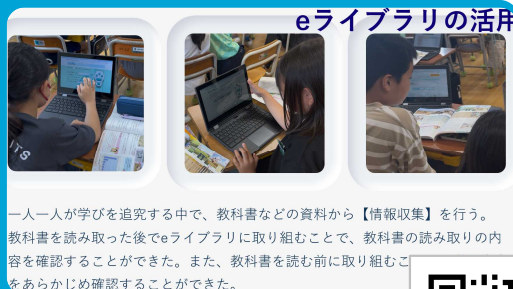
AI型ドリルを使った思考力を身につける授業

神奈川県鎌倉市立植木小学校
渡邊 貴博 先生

イラスト付きの思考力育成問題で児童の興味を引き、個人とグループで考えさせる授業の流れと、シンプルでわかりやすい授業案などを紹介しました。

eLAつうしん

252号



複線型授業での授業実践

鳥取県米子市立啓成小学校
足立 遼介 先生

複線型授業で児童が学習ペースに合わせてドリルで理解度を確認しています。スプレッドシートで児童が設定した学習課題と進捗を把握しながら、児童主体の授業を進める実践を紹介しました。

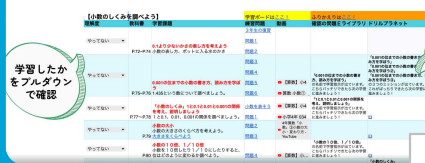
eLAつうしん

254号

4年算数 「小数のしくみ」

学習計画表・・・スプレッドシート

使用アプリ・・・Youtube、デジタル教科書、Eライブラリ、ドリブラ演習セット、Canva、eboard、Kahoot!など



確認問題で理解度をチェック



自由進度学習での授業実践

神奈川県座間市立立野台小学校
佐々木 翔 先生

「自ら学びをデザインできる子の育成」を校内研究テーマに、学習計画表のもと、一人一人に合ったツールで学び実践を紹介しました。

eLAつうしん

予定

業務軽減につなげるために（全校での取り組み）

週一持ち帰りの実施

・細かなルールを決めず、学年のICT担当にゆだねることに

1年生 教科担当で教材セットを作成し、ICT担当から配信

→担任がクラスの実施状況を見やすくする

2年生 学年グループを作成し、各教科担当から配信

→配信の手間が小さくて済む

3年生 入試に向けて3年間の復習を配信

→学習の必然性が高く、意欲が上がる

全校での取り組みと教員の業務軽減での活用

佐賀県鳥栖市立田代中学校
深川 尚紀 先生

ラインズeライブラリを保護者負担で導入しました。持ち帰り学習に全校で取り組むための工夫やルール、授業での活用のポイントを紹介しました。

eLAつうしん

244号

②実践紹介 『授業支援機能の活用』



- ・解答を教員のみ確認できる。
- ・児童のメモを後から確認できる
- ・全体の理解度がすぐにわかる。
- ・「わからない」の解答がある。

児童より...

- ・一問一答でクイズ感覚
- ・自分が間違えても他の人に見られない。



個別最適な学びを目指して

滋賀県草津市立草津第二小学校
大江 彬 先生

授業支援機能は教員が児童の「わからない」を拾い上げ、自動個別課題は児童自身が苦手なことに気づくことができます。課題出題を有効に使い、個別最適な学びを支援する実践を紹介しました。

※事例発表者のスライドに記載があります「eライブラリ」は、「ラインズeライブラリ」のことです